

令和8年度 熊本県立大学 総合管理学部 総合管理学科
一般選抜試験問題（前期日程） 小論文 解答例

問題1

- (1) ㉞ 定着
㉟ つちかわれる
㊱ 指標
㊲ さしつかえ
㊳ 推計
- (2) ア ×
イ ×
ウ ○
エ ×
- (3) その根拠として、インドとドイツでのエビデンス、ジャクソン教授の研究を挙げることができる。前者では、身近な友人、年上の模範的な友人、母親が子どもの向社会性や利他性を高めることが示された。後者では、一部の教員が生徒の非認知能力を伸ばし、高校入学後の成績や中退、高校の卒業、大学への進学意欲などに影響を与えていることが明らかになった。（164字）

問題2

- (1) ア
- (2) これらの研究は、幼児期の環境を豊かにすることが幅広い認知能力と非認知能力、学校の成績、仕事での業績、社会的な行動により影響を与えることを示している。こうした効果は実験の介入後に長期的に持続するものである。
- (3) ア ×
イ ×
ウ ×
エ ○
- (4) エ

問題3

- (1) ① 4.2%
② 6.0%
③ 420
④ 48.4%
- (2) 教師と保育人材がともに不足していることを読みとれる。教師が不足している学校はいずれの校種でも存在しており、その割合は小学校・高等学校より中学校・特別支援学校で高い。公営と私営を問わず、常勤の保育人材が全て・ほとんどの地域で不足傾向にある自治体はほぼ半数を占めている。（133字）

問題4

日本の問題としては、教師と保育人材の不足が挙げられる。資料1では非認知能力を伸ばすことに長けた教師の存在が、資料2では就学前の保育や教育の重要性が指摘された。そのため、教師や保育人材が不足すると、子どもが非認知能力を伸ばす機会を十分に得られない可能性がある。にもかかわらず、資料3の通り、教師が不足する学校はさまざまな校種で存在しており、保育人材の不足を認識する自治体は多い。(188字)